

横浜市陶芸センター 令和5年度指定管理業務評価表（外部評価）

	加世田委員	豊福委員	花里委員	古本委員
使命1 陶芸に親しむ機会を提供する	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸への最初の一歩として、気楽に1日陶芸体験、GW陶芸体験など様々な体験の機会を用意し、目標人数を大きく上回る方に親しむ機会を提供しました。 ・陶芸に親しむ方のレベルに対応した講座を組み立て、あらゆる方が満足できる内容を提供しました。 ・初の試みとして、中近東文化センター・東京都埋蔵文化センターへの見学を行い、陶芸という文化に親しむ機会を作りました。 ・各講座において利用者アンケートを実施し、加えて現場スタッフの声も加えて、今後に生かす分析をしていることは評価できます。全てのアンケート結果で、最上位の「満足」が90%以上を占めることは、それぞれの内容の充実を示しています。年齢層の分析を通して、すそ野を広めていることの確認と、今後アプローチしたい層を明らかにしています。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由時間のある年齢層はどうしても50代以上が中心となり、陶芸センターの利用者もその年代層が多数になると思われます。利用者の高齢化は課題ですが、親子体験などを通してまずは「楽しい記憶」を作っておき、タイミングがくれば利用者になる種まきは大事だと思います。引き続き、様々な企画を考えていただきたい。 ・親子、現役世代が参加しやすいよう、開催日についても検討していただきたい。 	<p>【評価する点】</p> <p>利用者の人数から見ると、11ある講座の中9講座が目標値を大きく上回っており、十分な評価ができる。</p> <p>体験教室の種類、開催数、夏休み親子陶芸教室など短期講座の取組にも、評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>自由作陶教室は、目標値から見ると1日あたり22人ですが、実績値は19人となっており稼働率100%に対する稼働率の解釈を検討する必要があると思われます。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍後の、利用者のニーズの多様性を読んで、体験型、基礎型、自立型の各種の教室を設置して、きめ細かな対応をしている。 ・実施回数、利生者数の目標値に対して、ほぼ達成、もしくは目標値を超えている。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由作陶教室が目標値を下回った理由を検討する。 ・利用者数の目標値の超過は素晴らしいが、その一方で、限られたスタッフと限られたスペースで展開している事業のため、質が下がらないよう、内容の合理化を検討する。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者から経験者まで、様々な人が参加できる講座を開催し、多くの講座で目標を上回る参加があり、かつその満足度が高かったことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験教室以外の講座は、受講者の年齢層が高くなっているようなので、体験教室の受講者が引き続き講座を受講できる工夫が必要ではと思います。
使命2 市民の主体的な作陶活動を支援する	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門技能や知識習得につながる事業を目標を超えて実施し、利用者の意欲に応えました。 ・特に、「徹底的に練習する」講座は、定員以上の参加があり、より技能アップを望む利用者のニーズに応えました。 ・様々な粘土を用意したり、新しい釉薬を導入して、陶芸の普及に努めました。民間ではなかなか難しい、陶芸センターならではのことだと思います。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招待作家講座について、次年度は実施されますよう期待します。 ・「練習したい」ニーズがあるので、体験の次のステップとして検討されてはどうかと思いました。 	<p>【評価する点】</p> <p>利用者の側に立った取組は長年、陶芸センター管理業者として利用者のニーズを良く知り尽くした点が、良い成果に繋がっていると思われます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>新たな講座を開設するには十分な準備と検証を行った上で、現行の講座を踏襲しつつ組み合わせていく事が肝要。リスクは最小に。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国やきもの講座や還元焼成講座など、利用者の探究心をキャッチするなど、スタッフのアイデアが生かされている。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の目標値の超過は素晴らしいが、その一方で、限られたスタッフと限られたスペースで展開している事業のため、質が下がらないよう、内容の合理化を検討する。 ・招待作家講座については、今後の実施を期待する。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度利用者が減少した講座を含め、すべての講座で目標を上回る利用者があり、利用者のニーズに答えたことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施できなかった招待作家講座は、令和6年度以降、継続して開催されるよう期待します。

横浜市陶芸センター 令和5年度指定管理業務評価表（外部評価）

	加世田委員	豊福委員	花里委員	古本委員
使命3 陶芸を媒介としたネットワーク	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援型講座の団体教室・出張教室は100%の満足度で、次年度の依頼に繋げています。 三溪園、本牧市民公園等との共催では、企画や割引等で連携し、相乗効果を上げることができました。 本牧地区センターからの取材受け入れなど、周辺施設のみならず地域の施設との連携を深めています。 福島の宗像窯など、県外からの相談が日常的に対応していること、横浜市の陶芸の拠点としての認知度が高まっていることは素晴らしいと思います。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 陶芸センターの存在は、本牧地域では周知されていると思われますが、まだ一般市民の知名度は高くないようです。他地域施設との連携手段も検討いただけることを期待します。 	<p>【評価する点】</p> <p>支援型講座の取組は、重要な使命として評価出来ます。参加人数の問題は、個人との繋がりではなく、参加者の所属する機関との連携が必要であり、準備に時間を要する取組であります。今後も関係構築に時間と手間を掛けて続けてもらいたい。</p> <p>陶芸祭は魅力的な企画が満載であり、来場者数からも高い評価となります。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>陶芸文化鑑賞講座は陶芸センターとして必須思います。見学コースの選定も目的を射たものであり、参加者の少なさは残念です。作陶との関係性など、日頃の指導との関連性を持たせる事も必要と思われます。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 陶芸文化の裾野を広げるために支援型講座を設けたり共催企画を計画したりするなど多種多様な取り組みに前向きである。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者数の目標値の超過は素晴らしいが、その一方で、限られたスタッフと限られたスペースで展開している事業のため、質が下がらないよう、内容の合理化を検討する。 陶芸センターのメインがそもそも作陶体験の推進にあるため、鑑賞主体の企画については、工夫の余地がある。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去最大の入場者となった陶芸祭が、多くの来場者の満足するイベントとなり、陶芸の魅力を伝えることが出来たことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 団体研修のオーダープランが目標回数を大きく下回っているので、柔軟な対応により目標達成を目指して欲しいと思います。
使命4 施設運営を行う 持続可能性を高める	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常のこまめな点検、メンテナンスを通して、適切な安定した運営を維持しました。 転倒事故を受け、導線を考慮したレイアウト変更を行うなど、速やかに対策を講じました。 女性スタッフや女性利用者の意見の聴き取りをしたり、蛇口の種類をハンドル式からレバー式に取り替えるなど、性別・年齢に関わらず誰もが利用しやすい施設を目指していることを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の高齢化もあり、施設内の安全対策には引き続き注力していただくよう期待します。 	<p>【評価する点】</p> <p>施設に対する日常の点検、管理は資料から十分に行われている事が、読み取れます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>貸室の稼働率100%を実質稼働率100%に向上して行く工夫が必要。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 古い施設の維持管理を適切に行なっている。 利用者の利便性に対して真摯に対応している。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続きの運営努力をお願いします。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内設備の早期修繕、見回り点検、道具類等のメンテナンス等により、経費削減及び適切な施設管理が行われたことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者に高齢者が多いことから、不測の事故への備えも希望します。
その他			<ul style="list-style-type: none"> 常時開館を目指していること、職員を新規採用して利用者のサービス向上に努めていること、また、スタッフ間の声掛け等によるコミュニケーションの円滑化を図るなど、「活気」をつくることへの意欲を感じる。 小中学校との連携強化が望まれる。 条例等で難しいのかもしれないが、料金の値上げの検討が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主事業収入が予算額を大きく上回り、かつ自主事業支出が抑えられた結果、自主事業収支が大きくなったことを評価します。

横浜市陶芸センター 令和5年度指定管理業務評価表（外部評価）

	加世田委員	豊福委員	花里委員	古本委員
総括	<p>これまでの実績を活かした、利用者に目線を合わせたより安定した運営をされていると思います。</p> <p>事業に関しては、三渓園と連携した体験講座、企画講座など、陶芸のすそ野を広げる様々な工夫がされています。また各講座でアンケートをとり、満足度を図るだけではなく、年齢層等の分析をして今後の運営に生かそうとしていて、とても評価できる点だと思います。</p> <p>初心者ではない利用者に対し、「徹底的に練習する」講座などを実施し、作陶活動のモチベーションに繋げています。特に練習を目的とした講座は、自身の成果が体感できるので楽しいものと思います。</p> <p>新規に、「陶芸文化鑑賞講座」やラーメン鉢をテーマにした公募等を実施し、新規の方・リピーターの方に関わらず、陶芸の魅力を掘り起こすきっかけづくりをされました。</p> <p>性別・年齢に関わらず「誰もが利用しやすい」施設となるべく、利用者やスタッフの聴き取りなど実施したり、レイアウト変更や器具の交換など、速やかに対応している姿勢を評価します。</p> <p>【更なる取り組みに期待する点】 限られたスペースの中に様々な機材・材料を置かねばならない中、利用者の安全確保、使いやすさを追求するのは厳しい点もあると思いますが、施設の皆様の日々の積み重ねを通し、安心安全な施設運営努めていただきたい。</p> <p>利用者層の高齢化が課題となっていますが、講座開催日程の検討とともに、5年10年先の利用者となる方を増やす種まきの仕掛けを引き続き検討していただきたい。</p>	<p>拝見した資料から、文化事業、施設運営、施設管理の取組内容・実績ともに評価できる内容である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設定したミッションに対して意欲的であることを評価したい。 ・講座内容がアイデアに満ちており、コロナ禍後の人流増に対応できており、活気をつくり出していることを評価したい。 ・その一方で、限られたスタッフと限られたスペースで展開しているため、事業の質が下がらないよう、事業内容の合理化を検討する必要があると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の事業運営は、順調に行われていると感じました。ただし、利用者の高齢化は進んでおり、今後の運営を考えると、若年層の利用者獲得のため、更なる魅力的な講座の開催や情報発信の必要性を感じました。

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目			令和5年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)		取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 陶芸に親しむ機会を提供する(使命1)	1 体験型教室	気楽に一日陶芸体験(手びねり)	●気楽に一日陶芸体験(手びねり)の開催 □開催数	7回/年	7回/年	2種類の手びねり技法(タララ成形・玉作り)による体験講座。初心者、リピーターが何度も受講しても楽しめるように、毎回テーマ(季節、粘土、釉薬等)を変えて開催。	【成果】 ・気楽に一日陶芸体験教室は目標人数を大きく上回ることができました。自由作陶教室への申し込みを検討されている方の最初のステップとしても人気です。申込受付初日にほとんど定員が埋まることも多々ありました。体験型教室はどれも安定した申し込みがあり、年間を通じた講座全体の満足度も96%と非常に高い満足度を維持することができました。 ・未就学児~70代まで幅広い年齢の方が参加され、市民の方に陶芸を親しむ機会を提供できました。 ・毎回テーマ、技法、粘土、釉薬、焼成方法を変え、初めての方もリピーターの方も楽しんでいただける内容を企画しました。 ・基礎型講座の2日間講座、3日間講座、4日間講座は令和4年度から実験的に導入された講座です。カリキュラムの中に手びねりや電動ロクロ、下絵付け、釉掛けなどの作陶工程を全て取り入れ、仕事に忙しい現代人向けの短期集中講座として90%以上の満足度を得られました。 ・自立型教室(自由作陶教室)は前年度比率102%の利用率、第二自由作陶教室は186%の利用率となりました。令和4年から令和5年の利用者数の低下はコロナウィルス感染症の防止の観点から密集する講座等を避けるために夏季に40日間の休講をした影響によるものと思われます。	【評価できる点】 ・体験型教室、基礎型教室、自立型教室では、多くの講座で目標を上回る利用がありました。また、陶芸入門者に適した「気楽に一日陶芸体験」のアンケート結果では、満足度について利用者の91%が5段階評価で最上位の「満足」と答えしており、内容について高評価を受けています。年代別でみても、10代までが28%、20~40代が36%、50代以上が36%とバランスがよく、幅広い年齢層に対して陶芸に親しむ機会を提供していることがうかがえます。 ・「夏休み親子陶芸教室」では目標を2割上回る利用者を集めたうえ、アンケート結果では40代以下の親子連れが8割以上に及ぶなど、運営上の課題となっている若年層へのPRにつながるプログラムになっています。また、内容についても94%が「満足」と答えており、利用回数が2回目以降のリピーターも35%に及んでいることから、陶芸のすそ野を広げ、定着させることにつながっていることが認められます。 ・「ゴールデンウイーク陶芸体験」や、8月に集中開催した「ゆったり丸一日陶芸体験」は、その手軽さや時期的な参加しやすさが受け入れられて、多くの利用者を集めたと考えられます。 【更なる取組を期待する点】 ・基礎型講座として設定している陶芸入門4日間講座の年代別利用者は、50代以上が約8割となり、体験型教室における年代分布との乖離が目立ちました。その1つの要因として、平日を含む複数日の開催となることで、若年層や働き盛りの人たちが利用しにくくなることが考えられます。アンケート結果によると、講座の満足度自体は非常に高いことが認められるため、利用者のニーズを取り逃がしているとも考えられます。 ・自由作陶教室も受講者の62%が50代以上となっており、体験型教室の利用者を次のステップである基礎型教室、自立型教室にどう結びつけ、定着させていくかが課題となっています。 ・今後、利用者の動向や興味などをアンケート等によって分析をしながら、講座内容を検討し、潜在的な需要を掘り起こせるよう、講座内容はもとより、開催日程について検討を加えることを期待します。特に、現在は曜日別、時間帯(午前、午後)となっている講座については日程の是非も含めて、検討を進めてください。
			●気楽に一日陶芸体験(電動ロクロ)の開催 □開催数	7回/年	7回/年	電動ロクロ技法による陶芸体験。初心者、リピーターが何度も受講しても楽しめるように、毎回テーマ(季節、粘土、釉薬、焼成方法等)を変えて開催。		
			□目標利用者数	84人	120人			
		気楽に一日陶芸体験(電動ロクロ)	●気楽に一日陶芸体験(電動ロクロ)の開催 □開催数	7回/年	7回/年	GW期間中に開催する手びねり体験。陶芸センターの人の釉薬を提供。		
			□目標利用者数	84人	115人			
			●ゴールデンウイーク陶芸体験(手びねり)の開催 □開催数	5回/年	5回/年	GW期間中に開催する電動ロクロ体験。陶芸センターの人の釉薬を提供。		
		ゴールデンウイーク陶芸体験(手びねり)	□目標利用者数	60人	59人			
			●ゴールデンウイーク陶芸体験(電動ロクロ)の開催 □開催数	5回/年	5回/年	GW期間中に開催する電動ロクロ体験。陶芸センターの人の釉薬を提供。		
			□目標利用者数	60人	69人			
	2 基礎型教室	ゆったり丸一日陶芸体験	●ゆったり丸一日陶芸体験の開催 □開催数	7回/年	7回/年	午前・午後を通じた作陶体験。土練り、成形(電動ロクロ)、手びねり、釉掛けの行程を体験できる。	【課題】 ・初心者の方でも体験できる気軽さを維持しつつ、リピーターの方も飽きさせない講座を企画します。 ・自由作陶教室の受講者の年齢層は50代以上が62%、貸室も50代以上が79%となっており、共に高齢化が課題です。一方で体験講座の年齢層は50代以下が77%と比較的若い方が受講されています。講座から自由作陶教室や貸室への申込に繋げていくことが今後の課題です。	【評価できる点】 ・初心者の方は、50代以上が約8割となり、体験型教室における年代分布との乖離が目立ちました。その1つの要因として、平日を含む複数日の開催となることで、若年層や働き盛りの人たちが利用しにくくなることが考えられます。アンケート結果によると、講座の満足度自体は非常に高いことが認められます。 ・自由作陶教室も受講者の62%が50代以上となっており、体験型教室の利用者を次のステップである基礎型教室、自立型教室にどう結びつけ、定着させていくかが課題となっています。 ・今後、利用者の動向や興味などをアンケート等によって分析をしながら、講座内容を検討し、潜在的な需要を掘り起こせるよう、講座内容はもとより、開催日程について検討を加えることを期待します。特に、現在は曜日別、時間帯(午前、午後)となっている講座については日程の是非も含めて、検討を進めてください。
			□目標利用者数	84人	104人			
			●夏休み親子陶芸教室の開催 □開催数	5回/年	5回/年	夏休みに親子で協力して、2個の作品を制作する作陶体験。		
			□目標利用者数	100人	121人			
3 自由型教室	3 自由型教室	陶芸入門4日間講座	●陶芸入門4日間講座の開催 □開催数	5回/年	5回/年	基本的な土練り、成形(電動ロクロ)、削り、釉掛けを4日間で学べる入門講座	【成果】 ・全国やきもの講座では、萩土(山口県)での萩焼と信楽透光土(滋賀県)でのランプ作りの体験を実施しました。萩土は利用者からの要望も多い人気の土で、全国やきものの講座では萩の粘土と釉薬を用いた還元焼成で本格的な萩焼を体験でき、多くの利用者がいました。信楽透光土は近年開発された透光性のある素材です。利用者の創作意欲を刺激するような粘土を導入しようと努めました。利用者に様々な種類の粘土の違いを体験して頂くことは陶芸の普及を図るという点で陶芸センターの役割の一つであり、それを達成できたと考えます。 ・還元焼成講座では今年度から導入した紫辰砂の利用が多くされました。新しく導入した釉薬により、利用者の新たな興味を引き出すことができました。 ・水挽講座はロクロを挽く練習を目的としているため完成品の持ち帰りはありませんが、定員以上の参加がありました。利用者が高い意欲をもって日々作陶されている様子が伺えます。今後も利用者の高い意欲に応える講座の開催に努めます。 ・大物焼成講座は前年より利用者が増え、毎月定員に達することができました。大物作品は通常の作品棚に収まらないため専用の保管場所を用意しており、スペースの都合上定員を設けています。窓内に余裕がある場合は大物作品も形状に応じて焼き上げているため、結果として定員を超えている場合でも新しい大物焼成作品を柔軟に受け入れる余裕が生まれ、利用者が増加していると考えられます。 ・作陶展では66人からの出品があり、日頃の利用者の成果を存分に発揮することが出来ました。(全国公募横浜陶芸展に開催しては陶芸祭の項目に記載しました)	【評価できる点】 ・いずれの講座も目標を上回る利用者があり、講座内容も粘土や釉薬の選定に工夫がみられ、利用者のニーズに応えるものだったと評価できます。 ・「電動ロクロ水挽き徹底講座」は、完成品を得ることを目的とせず、陶芸センターならではの講座の1つと見受けられます。アンケート結果では満足度について、未回答を除いて全員が「満足」または「やや満足」と答えており、技術向上を目指している利用者の考え方沿った内容であることが確認できました。 ・前年度は利用者が減少した大物焼成講座が盛り返したのは、陶芸センターからの利用者への働きかけも大きかったと思われ、その努力を評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・開催できなかった招待作家講座については、十分に準備期間を取った上で実施できるよう努めてください。 ・上絵付講座や電動ロクロ水挽き徹底講座の利用者は、アンケート結果によるといずれも40代以上でした。満足度は総じて高いものの、講座の持続可能性を検証し、対策が必要な状況と考えられます。
			□目標利用者数	120人	160人			
			●陶芸入門3日間講座の開催 □開催数	1回/年	1回/年	一日体験、2日間コースより踏み込んで作陶を体験したい方を対象に、成形(電動ロクロ)、削り、釉掛けを3日間で体験する入門講座。		
			□目標利用者数	18人	21人			
		陶芸入門2日間講座	●陶芸入門2日間講座の開催 □開催数	1回/年	1回/年	一日体験より踏み込んで作陶を体験したい方対象に、成形(手びねり)、釉掛けを2日間で体験する入門講座。		
			□目標利用者数	12人	10人			
			●自由作陶教室(10回コース)の開催 □開催数(日数)	4回/年 (288日)	4回/年 (288日)	個々のベースで作陶を楽しめる講座(月曜~日曜 各10日間コース)		
		第2自由作陶教室(10回コース)	□目標利用者数	6358人	5500人			
			●第2自由作陶教室(10回コース)の開催 □開催数(日数)	4回/年 (42日)	4回/年 (42日)	毎週火曜日に個々のベースで作陶を楽しめる講座(10日間コース)		
			□目標利用者数	328人	435人			
2 市民の主体的な作陶活動を支援する(使命2)	1 追求型講座(貸室、自由作陶教室利用者を対象とした講座)	全国やきもの講座	●全国やきもの講座の開催 □開催数	2回/年	2回/年	全国の陶芸産地の粘土・釉薬・焼成方法を体験できる講座。第一回目は萩土(山口県)、第二回目は信楽透光土(滋賀県)を使用。	【成果】 ・全国やきもの講座では、萩土(山口県)での萩焼と信楽透光土(滋賀県)でのランプ作りの体験を実施しました。萩土は利用者からの要望も多い人気の土で、全国やきものの講座では萩の粘土と釉薬を用いた還元焼成で本格的な萩焼を体験でき、多くの利用者がいました。信楽透光土は近年開発された透光性のある素材です。利用者の創作意欲を刺激するような粘土を導入しようと努めました。利用者に様々な種類の粘土の違いを体験して頂くことは陶芸の普及を図るという点で陶芸センターの役割の一つであり、それを達成できたと考えます。 ・還元焼成講座では今年度から導入した紫辰砂の利用が多くされました。新しく導入した釉薬により、利用者の新たな興味を引き出すことができました。 ・水挽講座はロクロを挽く練習を目的としているため完成品の持ち帰りはありませんが、定員以上の参加がありました。利用者が高い意欲をもって日々作陶されている様子が伺えます。今後も利用者の高い意欲に応える講座の開催に努めます。 ・大物焼成講座は前年より利用者が増え、毎月定員に達することができました。大物作品は通常の作品棚に収まらないため専用の保管場所を用意しており、スペースの都合上定員を設けています。窓内に余裕がある場合は大物作品も形状に応じて焼き上げているため、結果として定員を超えている場合でも新しい大物焼成作品を柔軟に受け入れる余裕が生まれ、利用者が増加していると考えられます。 ・作陶展では66人からの出品があり、日頃の利用者の成果を存分に発揮することが出来ました。(全国公募横浜陶芸展に開催しては陶芸祭の項目に記載しました)	【評価できる点】 ・いずれの講座も目標を上回る利用者があり、講座内容も粘土や釉薬の選定に工夫がみられ、利用者のニーズに応えるものだったと評価できます。 ・「電動ロクロ水挽き徹底講座」は、完成品を得ることを目的とせず、陶芸センターならではの講座の1つと見受けられます。アンケート結果では満足度について、未回答を除いて全員が「満足」または「やや満足」と答えており、技術向上を目指している利用者の考え方沿った内容であることが確認できました。 ・前年度は利用者が減少した大物焼成講座が盛り返したのは、陶芸センターからの利用者への働きかけも大きかったと思われ、その努力を評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・開催できなかった招待作家講座については、十分に準備期間を取った上で実施できるよう努めてください。 ・上絵付講座や電動ロクロ水挽き徹底講座の利用者は、アンケート結果によるといずれも40代以上でした。満足度は総じて高いものの、講座の持続可能性を検証し、対策が必要な状況と考えられます。
			□目標利用者数	70人	81名			
		還元焼成講座	●還元焼成講座の開催 □開催数(日数)	4回/年 (288日)	4回/年 (288日)	焼成方法(酸化焼成・還元焼成)による作品の色の変化を楽しむ		
			□目標利用者数	300人	423人			
			●大物焼成講座の開催 □開催数	12回/年	11回/年	焼成の予約にキャンセルが出たため、8月は焼成がありませんでした。		
	2 専門技能習得講座(一般を対象に、陶芸の専門技術習得を目指す)	大物焼成講座	□目標利用者数	22人	22人			
			●作陶展の開催 □開催数	1回/年	1回/年	11/3(文化の日)に陶芸センター内にて開催。66名の方が出品。		
			□目標利用者数	1回/年	1回/年			
		招待作家講座	●電動ロクロ水挽き徹底講座の開催 □開催数	1回/年	1回/年	電動ロクロ技術向上のため、作品を残さず徹底的に水挽き練習する講座		
			□目標利用者数	24人	46人			
			●上絵付(3日間コース) □開催数	1回/年	1回/年	上絵付で使用する和絵具(玉くすり・金彩含む)の扱い方を学べる入門講座。骨描き(輪郭線)～和絵具の扱い方等。		
			□目標利用者数	18人	21名			
		招待作家講座	●染付(1日間コース) □開催数	1回/年	1回/年	染付で使用する下絵具(吳須)の		

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する(使命3)	1 支援型講座	指導者研修講座	●指導者研修講座の開催 □開催数	2回/年	2回/年	市内小・中・高等学校、特別支援学校の指導者が参加。陶芸の基礎知識講義と制作実習を実施。	【成果】 ・研修講座や団体教室・出張教室の認知度を高めるために近隣の学校や幼稚園にDMの発送をしました。オーダープランは目標より少ない申込数でしたが、通常プランと合わせた団体教室全体の目標回数は達成することが出来ました。団体教室と出張教室はアンケート評価では100%の満足度を達成し、来年度の教室もご依頼いただいています。令和4年度の団体教室申込12件中4件が令和5年度にリピートがあり、令和5年にリピートしていただけなかった団体でも令和6年度に再びお申込み頂いた例もありました。毎年とは言わないので、幼稚園や学童などの定番の活動として普及しつつあるように思います。 ・陶芸祭での体験教室は目標利用者数を大きく上回る結果となりました。特に陶芸祭の初日では地域の皆様がバザーを楽しみに朝早くから来場され、賑わっていました。作陶展でも66人からの出品があり、日頃の利用者の成果を存分に発揮することが出来ました。 ・コロナウィルス感染症の拡大を経て5年ぶりの開催となった全国公募展では「ラーメン鉢」のテーマでプロアマ問わず作品を募集しました。独創性に溢れた面白い作品が多数入選し、陶芸祭を盛り上げました。審査員には講師で日本工芸会正会員でもある丹澤裕子氏の他に現代美術家の梅津庸一氏を迎え、審査員特別賞を新たに設けることで工芸の分野にとどまらない新しい視点が審査に反映されました。 ・隔年で開催している陶芸文化鑑賞講座では小型バスを借りて東京都立埋蔵文化財センターと中近東文化センターへ見学へ行き学芸員や調査研究員の解説付きでの見学を実施しました。繩文土器などの日本古来の陶芸文化から中近東の多種多様な陶芸文化に触れることで日頃から作陶に励まれている利用者の方のモチベーションアップに繋げるとともに、陶芸文化への学びを深める企画になりました。日本や中近東の陶芸文化に关心のある利用者が参加したため満足度は高かったものの、まだ関心を持っていない利用者の興味を引くことが出来ず、価格に関してもハードルの高さがあつたため目標人数に達することが出来なかつたと考えます。	【評価できる点】 ・陶芸祭には、2年ぶりの開催となった前年度を大幅に上回る2,229人が来場し、過去最高の実績となり、来場者のアンケート結果でも、「満足」と答えた人が81%に上るなど、多くの方に陶芸の魅力を伝える機会となりました。 ・陶芸祭に合わせて「全国公募横浜陶芸展」を5年ぶりに開催し、関東を中心多くの作品を集めました。案内を全国の陶芸教室等に約1,000通送るなど、活動について幅広く周知したことなどが見えます。また、陶芸祭では入賞・入選作品を展示し、ホームページでも公表するなど、陶芸活動の拠点としての情報発信を積極的に行いました。 ・指導者研修講座や隔年開催の陶芸文化鑑賞講座など、幅広い視野からの取組により、陶芸を媒介としたネットワーク構築を進めている点を評価します。
			●団体教室(通常プラン)の開催 □開催数	5回/年	10回/年	10名以上の団体貸切り講座(手びねり技法)		
			□目標利用者数	48人	26人			
			●団体教室(オーダープラン)の開催 □開催数	5回/年	2回/年	団体の要望に応じ、粘土・釉薬・技法(電動ロクロ等)に対応可能な講座。今年度は【課題】に記載した通りの理由で目標達成に至りませんでした。		
			□目標利用者数	150人	159人			
			●出張教室の開催 □開催数	1回/年	1回/年	近隣の幼稚園にて開催		
			□目標利用者数	15人	16人			
			○三溪園共催企画 □開催数	1回/年	1回/年	陶芸祭のチラシ提示で三溪園の入園料割引を実施		
			□目標利用者数	30人	—			
			○本牧市民公園、地域商店街との共催企画 □開催数	1回/年	1回/年	陶芸祭(11/3文化の日)にて本牧市民公園、八聖殿と共に秋祭りを本牧市民公園内で開催。		
			●楽焼体験教室(陶芸祭体験)の実施 □開催数	1回/年	1回/年	陶芸祭期間中予約なしで当日気楽に体験できる楽焼(絵付け)		
			□目標利用者数	20人	33人			
			●手びねり体験教室(陶芸祭体験)の実施 □開催数	1回/年	1回/年	陶芸祭期間中、気楽に体験できる手びねり体験講座		
			□目標利用者数	16人	40人			
			●電動ロクロ体験教室(陶芸祭体験)の実施 □開催数	1回/年	1回/年	陶芸祭期間中、気楽に体験できる電動ロクロ体験講座		
			□目標利用者数	16人	54人			
			○陶芸文化鑑賞講座の開催	1回/年	1回/年(隔年開催)	小型バスを借りて中近東文化センターと東京都埋蔵文化センターへのツアー見学を行いました。		
			□目標利用者数	15人	8人			
			■陶芸祭来場者への対応	実施	実施	作陶展、陶器市・バザー、陶芸教室案内。	【評価する点】 ・三溪園との共催企画の楽茶碗制作、お点前体験は人気企画となり、参加者の満足度も大変高く、地域連携や広報展開も含めた施設の新たな境地を切り開く上で、大きな成果となっています。 ・施設の利用環境については、室内動線の確保とともに、講座内容ごとの会場設営など、配慮が必要な方の立場に沿った対応が行えています。また、令和5年度には新型コロナウイルス感染症への対応に変更があったことから、賓室のレイアウトを変更して動線の確保や生徒同士のコミュニケーションの拡大を図り、それに対する利用者からの声にも真摯に耳を傾ける姿勢が見られました。 ・前年度から始めたゆったり丸一日陶芸体験は、開催2年目にしてすでに定着したといえます。陶芸入門講座のうち、2日間講座は利用者こそ目標には達しなかったものの、アンケート結果では回答者全員が「満足」または「やや満足」を答えており、満足度自体は高かつたことがうかがえます。 ・横浜市内外の学校や陶芸窯、陶芸教室などからの相談に積極的に対応しており、陶芸の拠点施設としての役割の1つを十分に果たしています。	
			■予約無での陶芸体験の実施	実施	実施	当日参加可能な作陶体験教室実施。		
			■バザー・作品展示会での興味の喚起	実施	実施	陶器市・バザー・作陶展の開催。		
			■教室内の動線を確保するため、整理整顿を心がける	実施	実施	体験教室、講座によって作陶台、電動ロクロの配置換えによる会場設営実施。		
			■陶芸体験教室、親子陶芸教室等の開始までの待ち時間において、解説動画映像を上映する	実施	実施	講座案内、陶芸技術紹介を放映。また、令和4年度版の陶芸祭DVDを作成し、放映。		
			■映像によるロクロ技法や施釉技法、陶芸などの紹介	実施	実施	一日体験教室、団体教室にて放映		
			■小学校低学年と初めて陶芸体験される方を対象に、焼き物に関する解説と資料の配布など、次世代の育成に取り組む	実施	実施	親子陶芸教室、一日体験教室、指導者研修講座にて焼き物に関するテキスト、参考資料(陶磁器キーホルダー・色見本)を作成、配布。		
			■新講座として、丸1日体験講座、陶芸入門講座を開講	実施	実施	ゆったり丸一日体験教室、陶芸入門2日・3日・4日間講座を開催。陶芸文化鑑賞講座ではバッスターで他施設へ見学。		
			■小中高校・特別支援学校・養護学校に対して、作陶活動に必要な情報や質問に応じ、研修や電話相談での陶芸知識発信に努める	実施	実施	陶芸材料、成形技法、陶芸窯、電動ロクロ修理等相談対応		
			●公益的な作陶活動への情報発信	実施	実施	市内小中高等学校、特別支援学校に指導者研修講座DM509件発送・「全国公募2023横浜陶芸展」案内を全国の陶芸教室、関係カ所987通発送		
			□学童保育へのDM発送	1回/年	1回/年	市内学童保育、近隣幼稚園、団体教室DM461通発送		
			●陶芸知識の基地化 ■団体・出張教室での対応の難しいケース(作品の種類・重量・既存の電気炉の有無・経費)は、陶芸センターで講座受入が可能か判断し、積極的に対応する	実施	実施	近隣幼稚園にて出張教室開催		
			7 団体教室・出張教室の対応等、陶芸知識の発信による基地化					
4 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援	2 共催企画	陶芸祭(作陶展・秋祭り)	■陶芸祭来場者への対応	実施	実施	作陶展、陶器市・バザー、陶芸教室案内。	【評価する点】 ・様々な方が参加しやすいように、講座内容ごとに会場設営を実施し、教室内の導線確保に努めました。 ・次世代育成の取り組みとして、親子体験教室での資料を作成・配布することで、子どもが夏休みの自由研究として陶芸に関心をもつきっかけを作りました。また、次世代の育成を担う指導者に対して陶芸の理解を深めて頂けるよう市内小中高、特別支援学校等に「指導者研修講座」案内を509通発送しました。 ・新規講座の丸一日講座や陶芸入門2日間、3日間、4日間講座は下絵や釉掛けまで体験でき、非常に充実した内容の講座になりました。焼き上がりの作品も制作者の個性が出やすく、お持ち帰り陶芸も嬉しいように作品を持ち帰る参加者の様子が印象に残りました。自由教室への前段階としてもお勧めしています。また、4日間講座は自由教室に通う時間の取れない方の講座として、自由教室と一日陶芸体験の間の講座として需要があるよう思われます。そのため、2日間講座では1日陶芸体験との差異を出すことが難しく、魅力的な内容を打ち出すことが出来ませんでした。 ・小学校の焼成窯や釉薬についての相談対応を実施しました。 ・横浜市外の陶芸教室からの電気炉廃棄、熱電対の相談対応を実施しました。 ・福島の宗教窯からガス窯の煙突修理についての相談対応をしました。県外からの相談対応も日常的に受けており、陶芸の知識発信の拠点としての認知度が高まっている感じます。 ・本牧市民公園及び周辺施設との連携においては、陶芸祭での三溪園、八聖殿、本牧市民公園との共催企画や割引等で連携を深めることができました。三溪園とは陶芸祭での提携の他、陶芸センターで作陶した樂茶碗でのお点前体験などの企画を実施しました。本牧市民公園とは秋祭りと横浜上海友好都市提携50周年記念事業イベント、陶芸祭を同時に開催し、共にイベントを盛り上げることが出来ました。また、本牧市民公園周辺施設のみならず、本牧地区センターからの取材を入れなど、幅広く地域の施設との連携を深めることができました。	
			■予約無での陶芸体験の実施	実施	実施	当日参加可能な作陶体験教室実施。		
			■バザー・作品展示会での興味の喚起	実施	実施	陶器市・バザー・作陶展の開催。		
			■教室内の動線を確保するため、整理整顿を心がける	実施	実施	体験教室、講座によって作陶台、電動ロクロの配置換えによる会場設営実施。		
			■陶芸体験教室、親子陶芸教室等の開始までの待ち時間において、解説動画映像を上映する	実施	実施	講座案内、陶芸技術紹介を放映。また、令和4年度版の陶芸祭DVDを作成し、放映。		
			■映像によるロクロ技法や施釉技法、陶芸などの紹介	実施	実施	一日体験教室、団体教室にて放映		
			■小学校低学年と初めて陶芸体験される方を対象に、焼き物に関する解説と資料の配布など、次世代の育成に取り組む	実施	実施	親子陶芸教室、一日体験教室、指導者研修講座にて焼き物に関するテキスト、参考資料(陶磁器キーホルダー・色見本)を作成、配布。		
			■新講座として、丸1日体験講座、陶芸入門2日・3日・4日間講座を開催	実施	実施	ゆったり丸一日陶芸体験と差異を出すことが難しく、魅力的な内容を打ち出すことが出来ませんでした。 ・小学校の焼成窯や釉薬についての相談対応を実施しました。		
			■小中高校・特別支援学校・養護学校に対して、作陶活動に必要な情報や質問に応じ、研修や電話相談での陶芸知識発信に努める	実施	実施	陶芸材料、成形技法、陶芸窯、電動ロクロ修理等相談対応を実施しました。		
			●公益的な作陶活動への情報発信	実施	実施	市内小中高等学校、特別支援学校に指導者研修講座DM509件発送・「全国公募2023横浜陶芸展」案内を全国の陶芸教室、関係カ所987通発送		
			□学童保育へのDM発送	1回/年	1回/年	市内学童保育、近隣幼稚園、団体教室DM461通発送		
			●陶芸知識の基地化 ■団体・出張教室での対応の難しいケース(作品の種類・重量・既存の電気炉の有無・経費)は、陶芸センターで講座受入が可能か判断し、積極的に対応する	実施	実施	近隣幼稚園にて出張教室開催		
			7 団体教室・出張教室の対応等、陶芸知識の発信による基地化					

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

5 情報提供及び広報	8 施設の象徴としての登り窯の活用	■見学用として活用するほか、公園内におけるパネル掲出場所として活用 ■象徴的扱いとし、印刷物等で写真を使い紹介	実施	実施	登り窯の断面構造図を提示 ホームページ等で紹介	【課題】 ・利用者の方に安心・安全に施設を利用していただくためのレイアウト変更や工夫を随時行うほか、利用者の方との日頃のコミュニケーションの中で聞き取りした意見を取り入れていく必要があると考えます。 ・市内小中高、特別支援学校等に「指導者研修講座」案内を509通発送しましたが、実際の申込は26人でした。陶芸のカリキュラムを設けている学校の減少もあるように思われます。今後の課題としては指導者研修の需要に合わせた講座の在り方を考えいく必要があります。 ・2日間講座については内容の見直しが課題です。	【評価する点】 ・英語によるチラシを作成するなど、外国にルーツのある利用者を意識した情報発信を展開できており、その成果もあってか、利用者も増える傾向にあることを評価します。 ・フェイスブックやホームページを通して講座や教室の申込案内のほか、陶芸センターの様子も発信できています。 【更なる取組を期待する点】 ・利用者のアンケートでは、各教室、講座をホームページで知った人のほか、知人・家族の紹介によるケースが多くなったとの結果が出ています。それ以外の情報発信についてはどの程度の効果があったか、検証の機会を設けてください。 ・若年層へのアプローチに向けた工夫を期待します。
	9 (指定期間5年間において)近隣地域と連携した取組を行うための企画検討	■近隣地域との連携 ■陶芸祭での三溪園・本牧市民公園・地域町内会との連携	実施	実施	三溪園共催企画(楽茶碗講座)実施。目標利用者数4コース32人に対して32人が申込・参加。 陶芸祭において、三溪園、本牧市民公園、八聖殿と連携した陶器市、バザーを開催		
	1 施設利用促進のための広報・宣伝活動、ホームページや紙媒体の制作の充実	■ホームページ、SNSを活用して作陶講座等の情報を発信する ■すべての講座募集チラシの作成、配布 ■陶芸祭チラシの作成、配布 ■紙媒体への記事掲載の推進 ■ホームページの講座案内年度切り替え ■ホームページの新着情報の更新 ■セキュリティ及び情報ウェブアクセシビリティへの配慮	実施	実施	フェイスブックやホームページを通して、施設の様子や講座の案内等を発信 全講座チラシ作成、配布実施 陶芸祭のチラシ作成実施。近隣施設、町内会へ配布。情報誌「ARIFT」にて近隣地区へ43900部配布。英語版チラシを作成、館内掲示と横浜インターナショナルスクールへ配布。 神奈川新聞、情報誌「ARIFT」への記事掲載を実施 3月に実施 月1回以上の更新実施 適切に実施	【成果】 ・フェイスブックやホームページ、市域情報誌、近隣施設へのチラシ配布、公園内の看板掲示による広報を実施しました。 ・広報チラシは写真を大きく掲載して目を引くわかりやすいデザインにしました。公園内の看板掲示は地域の方の利用申し込みに繋がりました。 ・外国にルーツのある利用者が年々増えています。語学が堪能な講師の曜日に集中する傾向がありますが、別の曜日に移動された方も講師や他の利用者との交流を楽しみながら作陶されている様子が伺えます。	
	2 一般見学者へ質問対応や、陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページ等を通じての相談等の情報発信	■利用者に支障のない一般見学者の受入 ■電話・メールでの陶芸に関する質問への対応	実施	実施	一般見学者数1961人 市内、県外より陶芸講師紹介、電気窯、土練機、釉薬、メンテナンス、焼成、窯の設置等について相談対応実施	【課題】 ・若年層の利用者増加を目標に、若年層が利用しているSNSのアカウントを開設する等、若年層にリーチするための運用を目指します。 ・陶芸祭での英語版チラシについては、英語版チラシをきっかけに来場したのかそうでないかの判断が付かず、成果として具体的な数字を出すことは出来ませんでした。	
	3 Webサイトによる施設案内	■WEBサイトの活用	実施	実施	「ARIFT」WEB版、ヨコハマアートナビ等掲載実施		
	4 各種媒体を使った広報	■新聞・タウン情報誌・陶芸関連書籍、フェイスブック、ヨコハマアートナビ、公園内に看板掲示による情報発信	実施	実施	情報誌「ARIFT」陶芸センター案内発行(中区、磯子区、神奈川区港北区、西区)(60,500部)、神奈川新聞、ヨコハマアートナビ、公園内看板掲示、フェイスブック等による情報発信		
	5 (指定期間5年間において)陶芸センターの知名度アップ	■陶芸祭の情報を通じて近隣地区及び全国規模での知名度を上げる ■メディアの取材に対する積極的対応	実施	実施	陶芸祭チラシ43900部配布、ホームページ、フェイスブック情報発信、「ARIFT」よりメールマガ配信4500件 本牧地区センター発行「本牧地区センターだより5月号」のための取材受入れ	【課題】 ・貸室は50代以上の利用者が79%を占めており、将来に向けての利用者確保のために50代以下の利用者の増加が課題です。 ・高齢化が進み教室を辞める利用者が増えたこと、年間を通して約20%の欠席者がいることが利用者数と利用料収入が目標に到達しなかった原因だと思われます。 ・貸室の利用者増加のため、新規粘土や釉薬の導入を今後も継続します。また、施設の認知度を高める取り組みも今後の課題です。	
	6 外国の方への情報発信方法の検討	■英語版チラシ・パンフレットの設置	実施	実施	英語版チラシの作成と配布を実施		
評価項目		令和5年度計画	実施状況			評価	
II 施設運営	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 作陶活動のための施設の提供	1 適切な施設開館及び施設の貸出	□開館日数357日、休館日9日 (休館日:清掃・空調機点検2日、電気点検1日、年末年始6日) ■開館時間・休館日の周知(館内掲示・ホームページ) ■開館時間9時~17時 ■成形室の動線、作業スペースの確保	開館日数357日 休館日9日	開館日数357日 休館日9日	5/12,10/12,10/16施設点検日(3日間) 年末年始休館(6日間) ホームページ、館内掲示板、受付にて利用者の方に直接お伝えする等周知実施 記載のとおり実施 毎日の見回り点検、整理整頓により実施	【成果】 ・計画通り施設の貸出を実施しました。 ・貸室において、新規釉薬の紫辰砂と期間限定粘土の萩土・透光性陶土を導入し、利用者の意欲増加に努めました。 ・受付マニュアルの改訂に加え、職員退職のため引継ぎ書を作成し、適切な業務実施に努めました。	【評価できる点】 ・各教室、講座、陶芸祭などのイベントにおいてアンケートを実施し、利用者の属性や満足度等を調べるとともに、それらをフィードバックして改善に結びつけるなど、アンケートを組織運営に活用する態勢が整っていることを評価します。
	2 公園条例に基づいた利用料金の徴収	適切な利用料金の徴収 ■陶芸成形室半日500円 ■焼成料100gまでごとに 100円	実施	実施	条例に基づく適正な料金徴収を行いました 記載のとおり実施	・一般見学者が1,961人となり、一定の方から関心を寄せられていることが伺えます。今後の施設利用者数の増加に向けた取組につなげることも期待されます。 ・新規釉薬や期間限定粘土を導入するなどして、利用者の意欲増加を高め、定着を図ったことが認められました。 ・副所長の退職に伴い、新規職員や事務員の採用を行なうなど、組織体制の維持に務めることができます。	
	3 新規利用者・貸室の利用率増加のための工夫	□貸室稼働率(288日) □貸室目標利用者数 □貸室目標利用料収入(焼成料含む) ■新規・長期利用者がステップアップできるよう、使用できる釉薬・粘土を工夫する。	100%	100%	目標288日、稼働率100% 前年より利用日が増えたことによる利用者数の増加 前年より利用日が増えたことによる焼成日の増加 期間限定粘土、釉薬の導入	【更なる取組を期待する点】 ・貸室の稼働率は、利用日ベースで100%を達成しましたが、定員に対する充足率は61%とになっています。令和4年度のデータでは、貸室利用者は60代以上が約8割を占めており、持続可能性の観点から抜本的な対策が求められています。 ・また、貸室利用料収入は目標の約8割にとどまっており、前年度も休館による影響を除くと目標の85%にとどまっています。その一方で、令和5年度の貸室の利用者数は目標の98%となっています。それらを踏まえると、貸室目標利用料収入は、現状を分析した上で再設定する必要があると考えられます。	
2 施設利用の貸出業務	1 適切な受付業務	■受付業務マニュアルの作成 ■利用者に対する利用手引き作成	実施	実施	令和5年度版更新作成 令和5年度版更新作成		

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

3(指定管理期間において)施設スペースの有効利用方法等の検討	1 アンケートを活用した利用者サービス向上と利用促進	■利用者アンケートを実施 ■アンケートからの改善の実施	実施 実施	実施 実施	開催した全ての講座で実施 粘土・釉薬・技法等の改善
	2 (指定管理期間において)施設スペースの有効利用方法等の検討	■講座教室内の整理整頓 ■ロッカールームスペースの活用の検討 ■不良在庫等の廃棄による収納スペースの確保 ■防災用品保管スペース拡張の検討	実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施	毎日の見回り点検にて実施 整理整頓によるスペースの確保、防災グッズの中身見直しと収納場所の確保 粘土・釉薬の計画仕入れによる不良在庫ロス、スペースの確保 整理整頓によるスペースの確保
4 施設見学等への対応	1 利用者への配慮をしながら、可能な限り、施設見学を受入 2 撮影	■利用者に支障のない一般見学者の受入 ■利用者に支障のない「撮影」の受入	実施 実施	実施 実施	一般見学者1961人 令和4年度の見学者数は1458人のため503人増 ジャニーズファンクラブ会報写真撮影会の依頼がありましたが日程が合わず実施には至りませんでした
5 指定管理料金以外の収入確保に向けた取組	1 各種助成金、協賛金等の活用	■各種助成金、協賛金等の活用の検討	検討	実施	令和5年度は実績なし
6 組織的な施設運営	1 必要人材の配置と職能 2 主要人材の能力担保	■適切な運営組織体制と人材の配置 センター長1人、所長1人、副所長1人 事務員2人、講師11人、貯室アドバイザー6人・助手3人 適切かつ効果的な勤務体制の確立 ■事務員、講師、貯室アドバイザー、助手をローテーション勤務 ■事務部門と指導部門の円滑な連携を図るため、事務部門、指導部門との兼任者を配置し、運営方針、課題、問題解決、連絡調整を行う ■職務分担表により効率的な業務遂行 ■事務部門に基本的な陶芸の知識、指導部門に専門知識等を提供し、全体的な知識のレベルアップを図る。	実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施	新規事務員1名、職員2名採用 事務員、講師、貯室アドバイザー、助手を計画通りのローテーション勤務 事務部門と指導部門の円滑な連携を図るため、事務部門、指導部門との兼任者を配置し、運営方針、課題、問題解決、連絡調整を実施 諸事情に対応しながら、早めの計画と効率的な業務遂行を実施 事務部門に基本的な陶芸の知識、指導部門に専門知識等を提供実施。事務職員が一日陶芸体験教室に参加。
7 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用	1 陶芸道具類の販売・紹介(提案1) 2 アンケート・利用者・スタッフの意見の活用(提案2) 3 施設増築(提案3)	■陶芸道具類の販売・紹介を実施する ■アンケート・利用者・スタッフの意見を取り入れ、円滑な事業運営に活用 ■収納スペースの確保	実施 実施 実施	実施 実施 実施	陶芸道具類の通常価格2割引き販売、道具の使い方の紹介を実施 アンケート・利用者・スタッフの意見を取り入れ、円滑な事業運営に活用 毎日の整理整頓の他、職員を増員したため事務室の模様替え、大掃除を実施しスペースを確保
8 その他施設運営に関する事項	1 休館日の届け出 2 許認可及び届け出 3 目的外使用料の申請 4 財務状況の確認 5 名札の着用 6 個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■休館日(年末年始6日間、施設点検3日間)の届け出 ■許認可及び届け出 ■陶芸小道具、自動販売機使用料の申請 ■財務状況の確認 ■施設運営従事する職員の名札の着用 ■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取り扱いを適正に行い、事故のないように努める ■マイナンバー利用者の個人情報漏えい防止のため、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる ■横浜市の障害者差別解消法の指針に従い差別解消を推進する ■情報公開規程に則り、情報開示請求等の適切な対応 □人権に関する職員研修年1回 ■苦情・要望について適切な対応と報告書の作成 ■管理・運営上の近隣への迷惑行為への十分な留意、対策の実施 ■横浜市中小企業への優先発注 ■横浜市暴力団排除条例の遵守(横浜市暴力団排除条例の趣旨に則り、適正に管理運営を行う)	実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施 実施	適切に実施 適切に実施 適切に実施 適切に実施 適切に実施 個人情報マニュアルの作成、取り扱い研修実施、個人情報の管理徹底 本社において施錠管理とパスワードでの情報管理 記載のとおり実施 開示請求0件 新規職員の着任に伴い、年2回実施 随時実施 随時実施 市内企業(電気設備・清掃業務)発注 記載のとおり実施

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ施設管理	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 持続可能性を高める施設運営を行う(使命4)	1 日常的な施設建物・設備の点検	□施設建物目視点検	毎日	毎日実施	毎日の見回り目視点検実施	【成果】 <ul style="list-style-type: none">毎日の見回り点検、道具類のメンテナンス、粘土釉薬の再生、業務マニュアルの改善により、安定した運営を維持できました。日常点検、毎月の機能点検、定期点検を実施し、無事故で設備維持保全ができます。早めの自前修繕(電動ロクロ修理、水道栓交換修理、窓の整備等)により、経費削減につながりました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none">毎日の見回り点検等、引き続き取り組みます。前年に続き、経年劣化による蛍光管交換の経費が増加しており、課題となっています。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">施設内設備の早期修繕を行うことにより、経費削減につながっていることが確認できました。毎日の見回り点検、道具類のメンテナンス等を含めて施設管理を適切に行えています。施設利用者の転倒事故を受けて、レイアウト変更を行うなどの対応を素早く行いました。この利用者は幸いにも軽傷だったとのことでしたが、引き続き無事故を目指した運営を中心してください。 【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none">施設内の照明設備は令和6年度から2か年度にわたるESCO事業により、LED化が予定されており、経費削減効果が見込まれます。その効果を施設運営にも生かすことを期待します。利用者は中高年層が多いことから、施設管理において注意すべき点が増えています。上記の転倒事故も高齢者とのことであり、事故予防に加えて災害対策も万全にするようお願いします。
		□陶芸道具類のメンテナンス、在庫管理	週1回	週1回	週一回の陶芸道具類のメンテナンス、在庫管理		
		□粘土・釉薬の再生(リサイクル)	月2回	月2回	月2回の粘土・釉薬の再生、メンテナンス実施		
	2 環境に優しい施設維持管理	□粘土・釉薬を直接下水に流さない	毎日	毎日	下洗い箱の設置、毎日点検実施		
		□排水溝・樹掃除	年2回	年2回	年2回の排水溝・樹掃除実施		
		□登り窯(レブリカ)の適切な管理	2ヶ月1回	2ヶ月1回	年9回の登り窯周辺の草刈実施		
	3 効率的な運営の努力	■高額修繕の回避	随時	随時	毎日の見回り点検による高額修繕の回避		
		□早めの計画	週1回	週1回	週一回の焼成スケジュール作成実施		
		□業務マニュアルの見直しと改善	年1回	年1回	令和5年度版業務マニュアルの見直しと改善実施		
2 保守管理業務	1 保守点検、備品管理、環境維持、長寿命化対応の実施	■管理標準チェックリストの記録	実施	実施	毎日の管理標準チェックリストの記録	【成果】 <ul style="list-style-type: none">毎日の見回り点検等、引き続き取り組みます。前年に続き、経年劣化による蛍光管交換の経費が増加しており、課題となっています。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">施設内設備の早期修繕を行うことにより、経費削減につながっていることが確認できました。毎日の見回り点検、道具類のメンテナンス等を含めて施設管理を適切に行えています。施設利用者の転倒事故を受けて、レイアウト変更を行うなどの対応を素早く行いました。この利用者は幸いにも軽傷だったとのことでしたが、引き続き無事故を目指した運営を中心してください。 【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none">施設内の照明設備は令和6年度から2か年度にわたるESCO事業により、LED化が予定されており、経費削減効果が見込まれます。その効果を施設運営にも生かすことを期待します。利用者は中高年層が多いことから、施設管理において注意すべき点が増えています。上記の転倒事故も高齢者とのことであり、事故予防に加えて災害対策も万全にするようお願いします。
		□空調機器定期保守点検	2回/年	2回/年	年2回の定期点検実施		
		■給排水設備点検	実施	実施	毎日の点検実施		
		□電気設備点検	毎日	毎日	毎日の電気設備簡易点検と自主簡易点検、年一回の定期点検実施		
		□ガス設備点検	毎日	毎日	毎日の点検と毎月の簡易点検実施		
		□消防設備点検	2回/年	2回/年	年二回の非常警備設備、非常避難路、消化点検実施		
		□窯業機械の機能点検	毎月	毎月	毎月実施		
		□窯業機械の保守点検	1回/年	1回/年	年一回の保守点検実施		
	2 小破修繕の取組	■見回り点検により、早めの修繕を行い、高額修繕に至らない様、適切な維持管理	実施	実施	毎日の見回り点検による蛍光管交換、水道栓ノブの交換、トイレコーナーカバーの取付、ロクロ台の塗装、電動ロクロ修理、ヒーター線短絡の修理		
		■修繕部品の直接購入による修繕コスト削減	実施	実施	水道栓のノブ、電動ロクロのバーツを購入		
3 環境維持管理業務	3 備品等の適切な管理	□年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告する	1回/年	1回/年	年一回の物品管理簿の棚卸実施	【成果】 <ul style="list-style-type: none">毎日の見回り点検による蛍光管交換、水道栓ノブの交換、トイレコーナーカバーの取付、ロクロ台の塗装、電動ロクロ修理、ヒーター線短絡の修理年一回の物品管理簿の棚卸実施計画的な窯の焼成スケジュール実施釉薬、薬剤の適切な管理、点検実施	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">施設内設備の早期修繕を行うことにより、経費削減につながっていることが確認できました。毎日の見回り点検、道具類のメンテナンス等を含めて施設管理を適切に行えています。施設利用者の転倒事故を受けて、レイアウト変更を行うなどの対応を素早く行いました。この利用者は幸いにも軽傷だったとのことでしたが、引き続き無事故を目指した運営を中心してください。 【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none">施設内の照明設備は令和6年度から2か年度にわたるESCO事業により、LED化が予定されており、経費削減効果が見込まれます。その効果を施設運営にも生かすことを期待します。利用者は中高年層が多いことから、施設管理において注意すべき点が増えています。上記の転倒事故も高齢者とのことであり、事故予防に加えて災害対策も万全にするようお願いします。
		■計画的な窯の焼成スケジュール	実施	実施	計画的な窯の焼成スケジュール実施		
		■釉薬、薬剤の適切な管理、点検	実施	実施	釉薬、薬剤の適切な管理、点検実施		
	1 施設の安全・安心・快適環境維持	□清掃業者委託による清掃	毎日	毎日	全ての開館日に実施		
		□定期清掃	2回/年	2回/年	年二回実施		
4 保安警備業務	2 廃棄物の抑制と適切な処理	■使用済み粘土・釉薬を毎日適切に管理する	実施	実施	毎日の見回り点検により実施	【成果】 <ul style="list-style-type: none">毎日の清掃、定期清掃を実施し快適な環境維持に努めました。適切な廃棄物処理に努めました。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">施設内設備の早期修繕を行うことにより、経費削減につながっていることが確認できました。毎日の見回り点検、道具類のメンテナンス等を含めて施設管理を適切に行えています。施設利用者の転倒事故を受けて、レイアウト変更を行うなどの対応を素早く行いました。この利用者は幸いにも軽傷だったとのことでしたが、引き続き無事故を目指した運営を中心してください。 【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none">施設内の照明設備は令和6年度から2か年度にわたるESCO事業により、LED化が予定されており、経費削減効果が見込まれます。その効果を施設運営にも生かすことを期待します。利用者は中高年層が多いことから、施設管理において注意すべき点が増えています。上記の転倒事故も高齢者とのことであり、事故予防に加えて災害対策も万全にするようお願いします。
		■産業廃棄物の管理状況をチェックし、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する	実施	実施	毎月の産業廃棄物のチェックの実施とルート回収による廃棄		
		■日常の見回りによる危険箇所の発見	実施	実施	夜間人感センサーライト設置		
5 防火・防災等	1 日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	■警備業務一覧を職員全体で認識共有	実施	実施	退館時のWチェック体制の実施	【成果】 <ul style="list-style-type: none">防犯や見回りに取り組み、安定した施設運営ができました。6月に利用者の転倒事故がありました。平坦な施設ではありますが、小さな段差や、釉薬の掃除がしやすい滑らかな床材を使用しているため、すべり止め等の対策が課題です。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">利用者を含めた防災訓練、AED操作研修、災害備蓄品の更新を実施し、利用者の安全・安心を確保するための取り組みを行いました。利用者の年齢層が高いため、避難経路の確認や近隣施設と連携したさらなる災害対策に取り組みます。
		■警備保障会社による24時間警備(機械警備)	実施	実施	総合警備保障(株)による24時間機械警備、防犯カメラ設置		
		■灾害対策マニュアルの整備	実施	実施	令和5年度版作成実施		
		□利用者も含めた防災避難訓練	2回/年	2回/年	7月、2月に実施		
		□AED操作研修	2回/年	2回/年	7月、2月に実施		
6 緊急時の対応	1 緊急時(災害発生時)の連絡体制・役割分担	■焼成についてスタッフの安全教育、防火管理の徹底	実施	実施	焼成管理、防災管理の徹底	【成果】 <ul style="list-style-type: none">利用者を含めた防災訓練、AED操作研修、災害備蓄品の更新を実施し、利用者の安全・安心を確保するための取り組みを行いました。利用者の年齢層が高いため、避難経路の確認や近隣施設と連携したさらなる災害対策に取り組みます。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">利用者の年齢層が高いため、避難経路の確認や近隣施設と連携したさらなる災害対策に取り組みます。
		□防災用品を準備、備蓄、更新をする	2回/年	3回/年	4月、7月、2月に実施		
7 感染症対策等衛生管理の徹底	1 感染症対策等衛生管理の実施	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施	緊急連絡網の作成実施	【成果】 <ul style="list-style-type: none">横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」が5月7日で廃止されたため、その後は施設で独自に対応消毒石鹼、アルコールでの感染症対策と嘔吐物処理のマニュアル化と全職員で共有蚊の発生源の除去と野鳥の死骸の報告	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」が5月7日で廃止されたため、その後は施設で独自に対応消毒石鹼、アルコールでの感染症対策として、アルコール消毒設置適切に実施
		■新型コロナウイルス等感染症拡大防止マニュアル作成し実施する	実施	実施	「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」が5月7日で廃止されたため、その後は施設で独自に対応		
		■消毒石鹼、アルコールでの感染症対策と嘔吐物処理のマニュアル化と全職員で共有	実施	実施	感染症対策として、アルコール消毒設置		
8 その他施設管理に関する事項	1 施設の管理を行う上で必要な資格者の配置	□甲種防火管理者を1名選任する	1名	1名	甲種防火管理者1名在籍	【成果】 <ul style="list-style-type: none">計画どおり実施しました。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">計画どおり実施しました。
		□電気主任技術者を外部に委託する	委託	委託	電気主任技術者を外部に委託実施		

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 指定管理料のみに依存しない収入構造	1 魅力ある講座(企画)の開催	■興味を喚起する新規講座企画検討し、利用料增收を図る ■期間限定の粘土・釉薬を導入し、利用料增收を図る	実施	実施	期間限定粘土2種類導入・新規釉薬導入・陶芸の文化に親しむバズツアー開催、新しい技法・焼成方法の講座企画	【成果】 <ul style="list-style-type: none">・新規釉薬や粘土を導入とそれらを使った講座を開催し、利用者の興味喚起を促しました。新規導入した釉薬により新しい焼成方法に挑戦する利用者もおり、利用者の興味を引き出すことができたと思います。・利用者、近隣施設より不要になった陶芸図書、梱包材、雑巾、事務用品、花などを受け付けました。様々な協力を得ながら施設運営に取り組みました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none">・次年度も引き続き興味喚起を促す企画を検討します。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">・自主事業収入が予算額に対して決算では約250万円上回っており、前年度より約100万円の増加となるなど、講座、教室等を通じて多くの収入を得られたことを評価します。・講座としては、三溪園との共催企画の人気が高く、陶芸センターのプロモーションにもつながっていると考えられます。・新規釉薬や粘土の導入では、既存の利用者の興味を高め、施設利用の定着に結びついていると判断できます。・自主チラシの作成、印刷や計画的な予約販売に加えて、利用者から寄贈を受けた物品の積極的な活用により、経費削減の効果が高まっていると認められます。 【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が収まってきたにもかかわらず、利用料金収入は前年度比1.9%の増加伸び悩みました。結果を分析して、対策の検討を進めてください。・今後も新規の企画や期間限定の粘土・釉薬の導入などにより、講座・教室等のマンネリ化を防ぐとともに、積極的な情報発信や利用者の興味増進に努めることを期待します。
	2 寄贈品の活用	■不用になった陶芸書籍、古新聞、紙袋、タオルを寄贈頂き活用する	実施	実施	利用者より、植物、図書、タオル、梱包材、新聞紙等寄贈。施設運用に活用		
	3 助成金・協賛金・ボランティア活用	■様々な支援制度、ボランティアの協力を検討する	実施	実施	・陶芸祭(作陶展・バザー)において、ボランティアの協力		
2 経費削減等効率的運営の努力	1 効率的な業務システムの構築	■業務マニュアルの改善 ■業務スケジュール作成 ■焼成スケジュール作成	実施	実施	年一回の業務マニュアル更新作成実施	【成果】 <ul style="list-style-type: none">・業務、焼成スケジュールの作成、チェックも随時更新し、効率的に業務を遂行しました。・日常点検による早めの劣化箇所の把握と、自前修繕、自主チラシ作成・印刷(広告宣伝費)、予約販売と計画仕入れ、在庫管理、メンテナンス部品と灯油の直接仕入れにより、経費削減に繋げました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none">・次年度も予約販売と計画仕入れ、自前修繕を実施し、経費削減の努力を継続します。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が収まってきたにもかかわらず、利用料金収入は前年度比1.9%の増加伸び悩みました。結果を分析して、対策の検討を進めてください。・今後も新規の企画や期間限定の粘土・釉薬の導入などにより、講座・教室等のマンネリ化を防ぐとともに、積極的な情報発信や利用者の興味増進に努めることを期待します。
	2 日常点検による小破修繕	■自前修繕による修繕経費の抑制 ■窯業機械の毎月の機能点検により高額修繕に備える ■突然の高額修繕に備えた、日常点検による劣化箇所の把握	実施	実施	賃室シンク排水管のつまり解消、水道栓ノブの交換、トイレカバーの取付、蛍光管の交換、ロクロ台のステイン塗装、ヒーター線短絡の修理、電動ロクロ回転レバーメンテナンス		
	3 在庫管理の徹底	■陶芸材料の在庫管理を徹底し、計画仕入れを行なう	実施	実施	陶芸材料の在庫管理を徹底し、計画仕入れ実施		
		■粘土の予約販売を実施し、不良在庫を置かない	実施	実施	粘土の予約販売を実施し、不良在庫を減らす		
	4 再利用(リサイクル)	■粘土・釉薬の再利用を実施する、紙は裏紙を使用する	実施	実施	粘土・釉薬の再利用を実施、紙は裏紙を再生使用		
V 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	業務の基準	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 日報、月報の作成・管理	1 日報、月報の作成・管理	□業務日報の作成	毎日	毎日	毎日業務日報の作成実施	【成果】 <ul style="list-style-type: none">・計画通り、日報、管理運営月報の作成と管理を実施しました。モニタリングにおいて毎月のモニタリングにおいて報告・業務実績、利用者の満足度や意見を基に、事業計画、業務報告書、自己評価を作成しました。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">・業務日報や管理運営月報により、適切に施設管理できていることが、モニタリング報告によって確認できます。 【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none">・今後も、利用者へのアンケートから得られた意見を業務計画に反映してください。
		□管理運営月報等をモニタリングにおいて報告	毎月	毎月	管理運営月報作成と毎月のモニタリングにおいて報告		
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	□事業計画書・事業報告書の作成	1回/年	1回/年	事業計画書・事業報告書の作成実施		
3 業務評価の実施		□自己評価	1回/年	1回/年	自己評価の作成実施		
VI その他	選定要項	取組内容	目標		説明	自己評価	行政評価
1 市の重要政策課題への対応	1 個人情報保護についての取組	■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取扱いを適正に行い、事故のないように努める ■マイナンバー利用者の個人情報漏えい防止のため、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる	実施	実施	個人情報の徹底管理、個人情報マニュアルの改訂作成	【成果】 <ul style="list-style-type: none">・個人情報保護法、施錠管理、パスワードでの情報管理により、管理徹底に取り組みました。個人情報取り扱いマニュアルの改訂版作成、研修を実施し、個人情報漏洩防止に努めました。・日常の清掃、見回り点検を実施し、施設環境維持に努めました。また、適正な廃棄物処理に取り組みました。・施設や講座への女性のニーズを把握するために女性スタッフや女性利用者の意見の聞き取りを行いました。講座の釉薬の提案などでは多くの女性講師の意見をと入り入れつつ開催しました。また設備においても蛇口の種類をハンドル式からレバータイプに取り替えるなど、誰でも使いやすい物に変更しました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none">・今後も個人情報を適正に扱っていくため、引き続き研修を行うとともに日常業務の再点検を行う必要があります。・女性の利用者が増えている傾向にありますが、男性の利用者やスタッフの意見も聞き取り、今後も様々な性別、年齢の方が利用しやすい施設になるように努めます。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">・女性スタッフや女性利用者の意見の聴き取りを積極的に行なうなどしているほか、男性利用者やスタッフの意見も取り入れる姿勢を示しており、性別、年齢にかかわらず誰もが利用しやすい施設づくりに努めている姿勢を評価します。・個人情報の管理徹底や日常の清掃、見回り点検などを通じて、市が掲げる重要政策課題への対応を適切に行ってています。 【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none">・新たな人材の採用が伴う際には、個人情報保護や人権尊重などについて、研修の機会を設けて対応していくことが認められます。引き続き、定期的な研修を通じて徹底をお願いします。
		□職員向け個人情報保護に関する研修を年1回実施する	1回/年	2回/年	新規職員の着任に伴い、年2回実施		
			実施	実施	情報開示請求件		
	2 情報公開についての取組	■情報公開規程に則り、情報開示請求等の適切な対応	実施	実施	職員・講師にマニュアルを配布・研修。新規職員の着任に伴い、年2回実施		
			1回/年	2回/年	職員・講師にマニュアルを配布・研修。新規職員の着任に伴い、年2回実施		
	3 人権尊重についての取組	□人権に関する職員研修年1回	1回/年	2回/年	日常の清掃の他に、随時落ち葉の掃除、釉掛け場の掃除等を実施し、快適な環境維持に努めた		
			実施	実施	ゴミの分別実施		
	4 環境への配慮に関する取組	■施設の環境を維持し、快適な環境を保つため、清掃業務を適切に行なう	実施	実施	毎月の産業廃棄物のチェック実施とルート回収による廃棄		
		■施設から発生する廃棄物の発生抑制に努めるとともに、職員によるゴミ分別勧行を行い、ゴミの資源化を促進する	実施	実施	記載のとおり実施		
		■横浜市が構築する「ルート回収」を活用し、可能な限り資源化に努め、市役所ゴミゼロ運動に協力する	実施	実施	現場の意見聞き取り、アンケート調査等実施		
	5 障害者差別解消	■横浜市の障害者差別解消法の指針に従い差別解消を推進する	実施	実施	電気設備、清掃業務	【成果】 <ul style="list-style-type: none">・計画通り、法令の順守に取り組みました。・横浜市及び関係機関等との連携をはかり、連絡調整を実施しました。	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">・障害者差別解消法の順守に取り組みました。・横浜市及び関係機関等との連携をはかり、連絡調整を実施しました。
	6 男女共同参画	■女性スタッフの意見を取り入れ、利用者ニーズの把握、運営企画のヒントを探る。スタッフの出産、子育てに応じて、働きやすい職場環境の充実を目指す	実施	実施	記載のとおり実施		
	7 市内中小企業優先発注についての取組	■横浜市中小企業への優先発注	実施	実施	緊急連絡網の整備と迅速な市への報告		
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償保険、動産総合保険、レンジャー・サービス施設費用保険に加入する	実施	実施	記載のとおり実施	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none">・計画通り、法令の順守に取り組みました。・横浜市及び関係機関等との連携をはかり、連絡調整を実施しました。	【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none">・新たな人材の採用が伴う際には、個人情報保護や人権尊重などについて、研修の機会を設けて対応していくことが認められます。引き続き、定期的な研修を通じて徹底をお願いします。
	2 関係法令等の順守	■現行の関係法令を順守するとともに、法令改正に気を配り、契約等の前に確認	実施	実施	関係法令の順守実施		
	3 市及び関係機関等との連絡調整	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施	緊急連絡網の整備実施		

令和5年度 横浜市陶芸センター 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定期間第4期の2年目となる令和5年度の事業運営は、陶芸人口裾野拡大と作陶活動の拠点となる施設として、様々な企画や講座実施に取り組みました。1日体験教室は大変人気で申込受付には定員になることも多く、体験教室をきっかけに自由作陶教室に申し込まれる参加者も多くいました。自由作陶教室や貸室は半数以上がリピーターとなっており、講座も教室も安定した運営になっています。 ・「全国公募横浜陶芸展」の開催による全国発信や陶芸祭での本牧市民公園、三溪園、八聖殿との共催企画や横浜美術館での展示作品のための制作素材の提供、本牧地区センターからの取材への対応など、幅広く地域全体と連携した活動を実施しました。日常業務として学校や他施設、個人の方から陶芸や窯に関する相談も多く寄せられており、作陶活動・陶芸文化の発信拠点として信頼されていると感じます。今後も利用者や地域の方々の期待と信頼に応えられるよう努めていきたいと思います。 ・経費削減については固定経費を抑えつつ、外注に頼らないセンター独自の講座チラシ・ポスター作成、消耗品や送料の高い液化燃料を直接買いに行くなど、経費の削減に努めました。 ・令和5年度の新規取組として「陶芸文化鑑賞講座」での東京都埋蔵文化財センターと中近東文化センターへの見学や「全国公募横浜陶芸展」でのラーメン鉢をテーマにした公募等を実施しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の高齢化が進んでおり、継続利用されていた方も数名辞められました。貸室は79%、自由作陶教室は62%が50代以上となっており、若年層の利用者の増加に取り組みつつ、高齢の利用者が安全に利用できるよう工夫していく必要があります。 ・施設管理については建物の経年劣化に伴う日常点検や修繕が欠かせないものとなっています。利用者の建物・設備満足度は97%と高く、古い建物だからこそ良さを感じて頂けている部分もあるものの、高齢者が多く利用している施設ということもあります。安全に利用して頂ける工夫や点検が課題です。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使命1 陶芸に親しむ機会を提供する一部の講座、教室で利用者数が目標を下回っており、特に自由作陶教室は目標と実績の乖離が顕著となっています。一日陶芸体験などの体験型教室や、陶芸入門4日間講座などの基礎型教室の利用者が、次のステップとして自由作陶教室に申込む流れを強化していくことが重要と考えます。逆に、夏休み親子陶芸教室など、需要の多さに参加枠が対応できていないとみられる講座、教室もあり、施設としては機会損失につながっている可能性があります。 ・使命2 市民の主体的な作陶活動を支援する追求型講座や専門技能習得講座では、リピーターを多く獲得している状況にあり、そこからは、利用者のニーズに沿った丁寧な対応が心がけていることが伺えます。その意味では、招待作家講座が開催できなかったことは残念な結果となりました。利用者は50代以上が多く、若年層の取り込みが急務という施設全体の課題も踏まえて、入門講座や自由作陶教室とのつながりをどのように持っていくのか、検討を加えてください。 ・使命3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する支援型講座では、団体教室のオーダープランが前年度に統いて苦戦したほか、指導者研修講座の利用者も前年度と同様に目標を下回りました。それぞれ、現状を分析して原因を探るとともに、利用者増への取組を進めるよう期待します。指導者研修講座のように他では置き換えできない講座では、利用者へのアンケートで改善点の提案などを募るのも1つの手ではないかと考えられます。令和6年度より計画がスタートした、本牧市民公園周辺における施設連携への取組にも期待します。 ・使命4 持続可能性を高める施設運営を行う施設利用者の転倒事故は、施設の管理瑕疵とまではいえないかもしれません、日常的な施設建物・設備の点検に加え、施設レイアウトや防災体制のチェックなどを行うことにより、施設の安全・快適な維持管理に努めてください。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使命1 陶芸に親しむ機会を提供する総来場者数が達成目標を上回っている中で、利用者へのアンケートの結果では、年間を通じた満足度が96%に達するなど、非常に高い評価を受けています。企画内容や講師の指導などが利用者に認められており、陶芸に親しむ機会を提供しているものとして評価します。 ・使命2 市民の主体的な作陶活動を支援する追求型講座、専門技能習得講座のいずれも講座も利用者数が目標を上回り、初心者の段階を終えている利用者の作陶活動の支援が成果をあげています。染付、上絵付、電動ロクロ水挽徹底講座などは、アンケートによる満足度調査でいずれも80%以上が「満足」と答え、年間の開催回数を増やすことを希望する声が複数寄せられており、施設利用の定着にもつながっています。 ・使命3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する陶芸祭や三溪園共催企画などを通じて、近隣施設や地域との連携が着実に進んでいます。また、陶芸祭のアンケートでは、初めての来館者が5割強を占める中、満足度について81%が「満足」と答えるなど、内容についても高評価となり、共催企画を通じて陶芸を媒介としたネットワーク構築の礎を築いているといえます。 ・使命4 持続可能性を高める施設運営を行う施設内設備の早期修繕のほか、陶芸材料の在庫管理を徹底すること等により経費削減を図るなど、施設管理と効率的な運営努力の両面により、施設運営の持続可能性を高める努力をしていることが認められます。